

## 第 56 回日本母性衛生学会総会・学術集会

テーマ つないでいこう未来への母性医療 ～イーハトーブからのメッセージ～

大会長 福島 明宗 (岩手医科大学医学部臨床遺伝学科 教授)

開催年月日 平成 27 年 10 月 16 日 (金)、17 日 (土)

会場 いわて県民情報交流センター (アイーナ)、盛岡市民文化ホール (マリオス)

総参加者数 : 1494 名



### 開催概要

このたび「第 56 回日本母性衛生学会学術集会」を岩手県盛岡市で開催いたしました。今回は東北地方では 19 年ぶり 5 回目、盛岡市では実に 48 年ぶり 2 回目の開催でありました。

さて今回は日本母性衛生学会が公益社団法人化して 2 回目の学会でもあり、従来からの企画にいくつかの変更を加えました。また久々の地方開催でもあることに加え、いくつかの大きな学会と会期が重なったことから参加者数を危惧いたしておりました。しかしながらこれらの悪条件にも関わらず、会期中は素晴らしい好天にも恵まれ、会員 912 名、学生 96 名、非会員 486 名、併せて 1494 名の方々にご参加して頂く事ができました。この場をお借りして深く御礼申し上げます。



さて今回行った変更点ですが、一つはポスターセッションへの座長制度導入、もう一つは会員総懇親会の開催でした。まずポスターセッションですが、各座長の下でのプレゼンテーションとディスカッションを行ったことでポスターセッション自体のレベルアップになったかと思います。また従来一般会員が一同に会して交歓を行う場が本学会では無かったことから、このたび初の企画として会員総懇親会を開催いたしました。これは全く新たな企画でしたので参加者数が危惧されましたが、お陰様を持ちまして 150 名の方々にご参加をいただき、各種アトラクション (もりおか名物わんこそば大会) を交えながら大いに盛り上がりいただきました。



さて学会企画の主だったものをご紹介します。会長講演：「つないでいこう未来への母性医療～イーハトーブからのメッセージ～」学術集会長 福島明宗氏、招請講演：「小説からみた女性の生き方」直木賞作家 浅田次郎氏、教育講演：6題（下記参照）、シンポジウム：6題（下記参照）、ランチョンセミナー：7題（下記参照）、実践講座：1日目は「超音波実践セミナー」、2日目は「母体急変時対策セミナー（京都プロトコール）」を行いました。なお実践講座は非常に好評であり、当日受付開始直後より定員が満杯になってしまいました。参加ご希望が叶わなかった多くの方々にはこの場をお借りしてお詫び申し上げます。一般演題 410 題（口演 231 題、示説 179 題）、シンポジウムではセッション毎に大変活発な意見交換が行われておりました。メインテーマは「つないでいこう未来への母性医療 ～イーハトーブからのメッセージ～」ですが、学術集会および総懇親会での活発な議論、意見交換によりここ「イーハトーブ（いわて）」から様々なメッセージが発信できた事は主催者として大きな喜びと達成感を感じた次第です。



## 教育講演

1. 出生前診断における遺伝カウンセリングの役割  
川目裕 先生（東北大学教授）
2. 分娩・母乳射出から母性行動・家族の絆まで、親と子供を繋ぐオキシトシンと受容体  
西森克彦 先生（東北大学教授）
3. 周産期栄養管理こそ生活習慣病予防の基本—成人病胎児期発症起源説から—  
福岡秀興 先生（早稲田大学教授）
4. 東日本大震災における岩手県での医療活動  
眞瀬智彦 先生（岩手医科大学教授）
5. 胎児心拍数モニタリング講座—胎児 well-being 評価の基本—  
藤森敬也 先生（福島県立医科大学教授）
6. 周産期におけるメンタルヘルス  
大塚耕太郎 先生（岩手医科大学教授）

## シンポジウム

1. 出生前診断・検査と母性医療
2. 被災地における母性支援
3. 性と生殖の医療から考える LGBTI の支援と課題～レズビアン・ゲイ・バイセクシュア・トランスジェンダー・インターセックスを生きること～

4. 周産期遠隔医療・周産期地域医療 ICT のトレンドー周産期医療情報システムから電子母子健康手帳へー
5. 家族のメンタルヘルスを支えるには
6. 「つながる」「ひろがる」子育て支援～ソーシャルキャピタルを醸成してみませんか？～

#### ランチョンセミナー

1. 骨盤ケアで改善！PART15 妊娠・分娩・産褥・新生児期のトラブルー骨盤ケアで胎勢も、新生児の姿勢・睡眠も変わるー  
共催：有限会社青葉
2. 帝王切開後の産褥の母乳分泌促進に電動搾乳器を用いることの効果とその有用性  
共催：メデラ株式会社
3. NIPT を含む出生前診断における遺伝カウンセラーの役割  
共催：ラボコープ・ジャパン
4. CTG を読み解くー脳性麻痺の事例検討からー  
共催：トーイツ株式会社
5. 沐浴イノベーションー沐浴が変わると母も児も変わるー  
共催：株式会社ナチュラルサイエンス
6. ベトナムにおける周産期医療事業の展開  
共催：医療法人葵鐘会
7. 予防接種最新情報  
共催：一般社団法人日本ワクチン産業協会

最後に、本学術集会開催にあたり、お力添えやご支援を賜りました理事長をはじめとする学会理事・監事・幹事・代議員・会員の皆さま、学術企画・実行委員の皆さま、ご後援をいただいた岩手県医師会、岩手県産婦人科医会、盛岡市医師会、盛岡市医師会産婦人科診療部会（桃花会）、岩手医科大学医師会、岩手県産科婦人科学会、岩手県看護協会、岩手県助産師会、岩手医科大学産婦人科学教室同門会の皆さま、協賛企業の皆さまに厚く御礼申し上げます。

## 市民公開講座 開催概要

---

### 市民公開講座 1

開催年月日 平成 27 年 10 月 16 日（金）

会場 盛岡市民文化ホール（マリオス）大ホール（第 1 会場）

参加者数：600 名（うち一般市民 50 名）

「わが子のことば育ちが拓く可能性を考える」

鹿兒島子ども研究センター所長・理事長 岩元 昭雄 氏

「生まれてこないほうがいい命なんてない ～ダウン症のあるわたしから～」

いのちとこころをつなぐネットワークえほんの会 AYA

エッセイスト 岩元 綾 氏

座長 川鱈 市郎 先生

（独立行政法人国立病院機構長良医療センター周産期診療部長）

島田 啓子 先生

（金沢大学大学院医薬保健学研究域看護科学領域教授）

### 市民公開講座 2

開催年月日 平成 27 年 10 月 17 日（土）

会場 盛岡市民文化ホール（マリオス）大ホール（第 1 会場）

参加者数：150 名（うち一般市民 10 名）

「世界遺産平泉の浄土思想」

山田 俊和 氏（天台宗東北大本山関山中尊寺貫首）

座長 伊藤 博之 先生（聖路加国際病院アドバイザー 日本母性衛生学会監事）

10 月 16 日（金）の市民公開講座 1 は、ダウン症当事者およびご家族からの講演という本学会始まって以来の企画でありました。通常の講演時間より長時間ではありましたが、なかなか拝聴できない内容でもあり、聴衆の皆さまは途中退席もなく熱心に聴いておられました。特に綾氏のご講演の際は参加者の方々もうなずいて涙を流され感動されていました。会場にいらして下さったダウン症をもつご両親も笑顔で「とてもよい講演でした。綾さんの本も購入しました。」と話されておりました。

10 月 17 日（土）の市民公開講座 2 は、地元でもなかなか聴く機会のない世界遺産中尊寺の浄土思想をご紹介いただきながら仏教の世界感を通した現在社会における母と子の関係につ

いて語っていただきました。学会期間を通して最終のプログラムではありましたが、聴衆の方々には最後まで熱心に聴いていただきました。

両プログラムとも学術集会会長の想いを込めた企画であり、まさにその狙いどおりのものになったことをご報告するとともに、企画実現に向けご尽力いただいた関係各位の皆さま方に深く御礼申し上げる次第です。